

教 育 課 程

令和 6 年度



酒田市立酒田看護専門学校

	科目名	科目のねらい	授業の目標	授業内容	関連科目
基礎分野	英語 (1単位 30時間)	看護職は自己研鑽や研究のため海外の学会参加や論文作成等英語のコミュニケーションスキルを身につけておく必要がある。	日常会話を中心に実際に基礎を確認しながら看護の場で役立つ用語や英語表現を学ぶ。	看護の場を設定し、必要な単語・用語・表現・会話を学ぶ。 Unit1 急に話しかけられた時の対応 Unit2 自己紹介等 Unit3 丁寧な質問の仕方 Unit4 初診の患者への基本的な質問 Unit5 道順の尋ね方と答え方 Unit6 症状の尋ね方 Unit7 人体各部の名称 Unit8 病歴の尋ね方 Unit9 薬の服用に関する表現 Unit10 予約の取り方 Unit11 手術に関する表現 Unit12 入院患者によくする質問 Unit13、14 復習 Unit15 試験	情報科学 情報通信技術と倫理 専門分野 ※関連科目における専門分野は「基礎看護学」 「地域・在宅看護論」 「成人看護学」 「老年看護学」 「小児看護学」 「母性看護学」 「精神看護学」 「看護の統合と実践」および「領域横断授業」の9領域を指す。
	生物学 (1単位 30時間)	人の体の仕組みに関する理解を深める基礎となる。生物の多様性を細胞レベルから探求する。一人ひとりの体とすべての活動は元々一つの受精卵だった細胞が分裂し形態・整理・生化学・機能が異なる数百もの種類の多様な細胞へ文化していることによって支えられている。人の誕生と成長・老化、進呈的及び知的活動、喜怒哀楽、病気の発症と治療・治癒等の生物としての人の一生に関わる全ての現象が人の身体を構成している細胞の整理・生化学家庭が基礎となっている。生物の仕組みの複雑さや微妙さを知ると同時にヒトはどのような生物であるかを理解する。	ヒトは40～60兆個に及ぶとされる細胞によって構成されている多細胞生物である。一人ひとりの身体とすべての活動はもともと1個の受精卵だった細胞が分裂し携帯・生理・生化学・機能が異なる数百もの種類の多様な細胞へと極めて複雑で緻密な経過を経て分化したことによって支えられている。生物の仕組みの複雑さや微妙さを知りヒトとはどのような生物かについて理解する。	(1) 概論、生物界の構成、多様性と共通性 (2) 生物の身体を構成している基本単位としての細胞の大きさや構造 (3) 真核生物の細胞小器官の構造1 (4) 真核生物の細胞小器官の構造2 (5) 生物を構成している物質と栄養 (6) タンパク質の構造とアミノ酸 (7) タンパク質の機能・酵素 (8) 細胞膜の構造と膜を介した物質の移動 (9) 遺伝子の本体としての核酸の構造とその複製 (10) 遺伝子情報の伝達と発現 (11) 真核生物の染色体の構造とその複製 (12) 細胞内におけるエネルギー生産が生物活動を支える (13) ヒトの身体の組織・器官・器官系・幹細胞とは (14) ヒトの身体を構成する細胞の多様性 (15) 終講試験	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 生化学 栄養学 臨床薬理学 専門分野
	教育学 (1単位 30時間)	教育は人間形成のための成長・発達を助ける働きかけであり、社会に一員を上げること、その人自体を価値ある存在としてよりよくすることを目的とする。看護は人間を対象とし、健康の保持増進・疾病の予防・健康の回復・苦痛の緩和を目的とする関わりであり、対象の思考や行動に働きかけ、対象が自らの持てる力を最大限発揮できるよう主体的により良い行動へ変容を遂げられるよう支援する役割がある。この科目では人間形成における教育の意義と機能、他者との関係構築について理解する。	1. 教育の概念や教育を成立させる要素が理解できる。 2. 教育の実践に必要な知識を理解することで人間の成長・発達にとっての教育の重要性が考察できる。 3. 看護の専門職業人として障害にわたり成長していくための自己教育力を身につけることの必要性が説明できる。	1. 社会の中の教育と看護 2. 教育の概念 3. 教育の対象 4. 人を教えるということ 5. 他者殿関わりを導く 6. 教育の受けてを見守る 7. 教育を受けて成長する 8. 教育の目標と評価 9. 教育のデザイン 10. 生涯学習	哲学 心理学 家族関係論 論理的思考
	生活科学 (1単位 30時間)	生活科学は、家庭生活の中の人間関係や衣食住を含めた生活環境が人間に与える影響等を学習し、人間と環境の相互作用で展開される生活を科学的に理解する。核家族化、地域とのつながりが希薄になった現代では若者の生活体験や異なる世代への理解が乏しくなっている。生活とはなにか、自分の身近なところから学習し地域で生活している人々の看護につなげてほしい。	1. 日常の生活現象を社会的にとらえ、生活課題を見つけ理解する。 2. 生活に関する衣食住の実態や問題点を客観的に把握し、日常の生活にいかしていき力を身につける。 3. 家庭経済、消費生活、生活の諸問題について理解し実践力を養う。 4. 自図からの生活を管理・運営でき、看護実践にも役立つ。災害時の対応も身につける。	1. 生活と生活科学 2. 食事と生活 3. 被服と生活 4. 住生活 5. 家庭経済と生活 6. これからの生活 7. エネルギー問題と災害	哲学 心理学 文化人類学 家族関係論 論理的思考 専門分野
	論理的思考 (1単位 15時間)	論理的とは、事実に基づき筋道を立ててものを考えたりもの毎について他者が納得できるよう説明したり記述できることをさす。論理的思考とは論理に従って物事を考える思考法であり、正しい言葉を使い思考を正しい順序で組み立て考えることである。看護は対象の健康的な生活とその人らしく生きることを支援する意図的な関わりであるため、対象の健康に関する情報を収集しそれらを正しく解釈して課題を明らかにする必要がある。	論理展開の正しさを学び、筋道を立てた思考や論理的判断および文章表現に必要な知識・方法を身につける。	1. 論理とは何か 2. 命題と論理 3. 推理と判断 4. 三段論法 5. 文章の論理性 6. 文章の読解 7. 文章の論評 8. 論文作成	教育学 情報科学 情報通信技術と倫理

基礎分野	哲学 (1単位 15時間)	人間は生まれてから死に至るまでの過程で様々な経験を積む。人間が生きていく過程で生じる事象の本質を洞察し、意味づけるための考え方を見出す視点として哲学は存在する。看護者には対象が経験していることの意味を深く考えることが必要であり人間を多角的に捉える視点を持つことが求められる。多角的な視点を持つことの重要性を理解し、育てるための基礎として哲学を学ぶ。	1. 人間存在の意味や価値について哲学的思考から考察できる。 2. 多角的に人間を理解し、看護に生かすための基礎理論がわかる。	1. 哲学入門 2. 道徳性の発達段階 3. ヒポクラテス主義とナイチンゲールの看護観 4. ホスピタリティから考える「共感」の本質とは 5. 個人の自由の尊重と個人を取り巻く集団の尊重 6. ケアリングという視点 7. 人間が生きることの意味 終講試験	心理学 社会学 教育学 論理的思考 専門分野
	社会学 (1単位 30時間)	社会学では、社会と人間との関係から社会の構造が人間の意識や行動にどのような影響を与えるかを学び、社会的存在としての人間を理解する。看護は対象やその対象を取り巻く人的環境の理解、生活の理解、社会状況や価値観の変化、社会現象への理解を深めることで、室の高い看護につながるものと考えられる。 学生自身も社会的存在として事故を理解し、看護の専門職業人としての社会参加について展望を持つことが必要である。	社会学の有する「多角的な視点」「領域横断性」「価値相対性」といった学問的特徴を具体的な事例を通して学ぶ。そうした学びから多様な価値観を持つ社会の総体を看護の主体である自分にひきつけて考えられるよう、柔軟な思考能力を育成する。	1. なぜ看護で社会学を学ぶか 2. 家族の社会学 3. 家族の社会学2 4. 地域の社会学 5. 集団と組織の社会学 6. 遊び・余暇の社会学 7. 病人という役割 8. 終末期をめぐる社会学 9. 「死」の社会学 10. 「病院」の社会学 11. 医療における人間関係1 12. 医療における人間関係2 13. 医療化と脱医療化 14. 「感情」の社会学 終講試験	哲学 心理学 教育学 家族関係論 専門分野
	家族関係論 (2単位 30時間)	看護の対象である人間は、家族もしくはそれに相当する機能を持つ集団の中で成長・発達し、様々な社会集団に属しながら「一個人」としてのアイデンティティを確立する。地域包括システムの推進にあたっては、看護の対象の捉え方を「病院で療養する人」から「地域でクラス人」へと大きく転換していかなくてはならない。この「地域で暮らす人」を捉えるうえで欠かすことができないのが家族の存在である。ここでは、現代の家族の特徴を知り家族を多角的に理解する能力と家族に生ずる問題の本質を見極め家族レジリエンスを高めるための支援の基礎知識を得ることをねらいとする。	「家族」を理解するために3つの理論を学ぶ。 ①家族システム論 ②家族発達理論 ③家族ストレス対処理論	1. 家族とは 2. 「近代家族」 3. 家族の発達 4. パートナーの選択 5. パートナーシップの多様化 6. 子育て 7. ワークライフバランス 8. 家族内暴力 9. 家族の多様化 10. 高齢期と家族 11. 家族観介護 12. 家族システム論 13. 家族療法 14. 家族アセスメント 15. 家族のゆくえ	教育学 社会学 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	文化人類学 (1単位 15時間)	看護の対象となる人間はあらゆる文化の中に生きている。文化は生活の集大成であり、文化によって生活の価値観も影響を受ける。当校の位置する北庄内は「北前船」の寄港地として栄え、近年は海外の豪華客船の誘致・受入れ港として機能している。自分の生活圏の文化を知ることや世界の文化との影響を知り理解を深めることがねらいである。	学生の身近な素材を取り上げて東アジアや日本全体の動向の中で、各時期の人々が変化する社会や考え方を如何に受け入れ対応したか、その過程と影響等を現在の社会と比較して学ぶ。これにより地域理解と人間性の幅を広げ、今後関わる多くの人々の価値観や人生経験を理解し認め自ら考える人の育成を目標とする。	1. 文化人類学とは 2. 寒道絵幕の世界（人物編） 3. 寒道絵幕の世界（建造物編） 4. 酒田の町立 5. 酒田の寺社の動向 6. 湊のにぎわい 7. 通過儀礼と年中行事	社会学 生活科学
	情報科学 (2単位 30時間)	看護学校における学習や看護研究、将来看護実践するうえで必要なネットワーク社会に必要な知識を学び、情報を主体的に収集、活用、編集、発信する力を育む。	1. コンピューターとネットワークに関する基礎的な用語の説明ができる。 2. 基本的なソフトウェアを用いてレポート作成、データ集計、プレゼン資料の作成ができる。 3. インターネットや文献データベースを用いて制度の高い検索ができる。 4. 医療機関で利用する情報システムの意義や役割について説明できる。 5. 情報セキュリティにまつわる危険を理解し、トラブルを事前に回避できる。 6. 統計解析ソフトをも言いて、基本的なデータ処理が行える。	1. ネットワークの利用（サーバー管理） 2. ネットワークの利用（データ管理） 3. 情報の基礎（ソフトウェア） 4. 情報の基礎（ハードウェア） 5. 文書の作成 6. 画像処理 7. プレゼンテーション 8. 表計算	論理的思考 情報通信技術と倫理 専門分野
	情報通信 技術と倫理 (1単位 15時間)	情報通信技術（ICT）の発展に伴い、今日の保健・医療・福祉の現場ではパソコンやタブレット等の情報端末が活用されている。看護師は情報とはなにかを十分理解したうえで「情報」を看護実践に活かして活かしていく必要がある。そのために「情報」の活用と保護の仕方について知ることの意義は大きく重要である。	①情報通信技術（ICT）とは何かがわかる。 ②情報通信技術（ICT）の発展は保健医療福祉の現場にもたらす有効性がわかる。 ③情報通信技術（ICT）を活用し入手した情報を適切に管理するための知識と方法がわかる。 ④保健医療福祉の現場において情報通信技術（ICT）を活用することの課題が考察できる。	1. ICTとはなにか 2. 保健医療福祉分野におけるサービス向上のためのICT活用 3. 医療における情報システム 4. 情報倫理と医療 5. 個人情報の保護 6. コンピュータリテラシーとセキュリティ 7. 保健医療福祉の現場において情報通信技術を活用することの課題の考察（グループワーク）	社会学 情報科学 専門分野
	心理学 (1単位 30時間)	心と言われる可視化できない実体を、知覚、思考、動機等の機能面から行動と行動の変化をもたらす原因からさらに心の動きを情報処理過程とした認知の側面から学ぶ。	心理学を概観し、全体像を学ぶ。記憶、学習、情動、パーソナリティ、発達、集団といった心理学の諸分野について概論的知識を学び、「こころとはなにか」「人間にとってこころとはなにか」を理解し、今後の看護活動に生かしていくための基礎知識を培うことを目標とする。	①心理学とは ②記憶 ③学習 ④情動 ⑤性格 ⑥動機付け ⑦発達1 ⑧発達2 ⑨自己 ⑩社会的影響 ⑪人間関係 ⑫集団 ⑬ストレスと心理的障害 ⑭カウンセリングの諸理論 ※6回目に中間試験を行う	社会学 教育学 家族関係論 臨床心理学 専門分野

専門基礎分野	解剖生理学 I (1単位 30時間)	人体を系統立てて理解し、健康と疾病、傷害の理解の基礎とする。また呼吸と血液の循環、体温調節と尿生成の生理作用を理解し、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。ここでは呼吸と血液循環、尿生成のしくみの観点から学ぶ。	1. 肺と気道の基本構造と呼吸生理学の基礎知識を学ぶ。 2. 心臓・血管・リンパ管およびリンパ性器官の基本構造とその生理学的知識を学ぶ。 3. 腎・尿管・膀胱および尿路の基本構造とその生理学的基礎知識を学ぶ。	1. ガイダンス 2. 呼吸を取り入れて二酸化炭素を出す仕組み、呼吸器の構造・ガス交換・呼吸調節 3. 循環（体の隅々まで血液を送る仕組み）心臓と心筋の構造・刺激伝導系・肺循環と体循環・脈拍と血圧・止血機構 4. 体液の調節と尿生成（尿を作る仕組み）尿の生成・細胞外液の調節・排泄系系の構造と神経支配	生化学 栄養学 臨床薬理学 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	解剖生理学 II (1単位 30時間)	人体を系統立てて理解し、健康と疾病、傷害の理解の基礎とする。また呼吸と血液の循環、体温調節と尿生成の生理作用を理解し、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。ここでは体や臓器を守るしくみや子孫を残す仕組みの観点から学ぶ。	1. 生体防御に関わる組織の構造と機構、およびその生理学的基礎知識を学ぶ。 2. 男性生殖器と女性生殖器の基本構造および生殖の生理学的基礎知識を学ぶ。 3. 人体発生の概略と老化に関する基礎知識を学ぶ。	1. ガイダンス 2. 外部環境からの防御 皮膚の構造と機能・生体防御反応・体温調節の仕組み・炎症と発熱のメカニズム 3. 生殖・発生と老化のしくみ 男性生殖器の構造と精子の形成・女性生殖器の構造と性周期・受精と胎児の発生・成長と老化	生化学 栄養学 臨床薬理学 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	解剖生理学 III (1単位 30時間)	人体を系統立てて理解し、健康と疾病、傷害の理解の基礎とする。また呼吸と血液の循環、体温調節と尿生成の生理作用を理解し、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。ここでは、食物を摂取して消化吸収し、排泄するしくみと身体を支えたり動かしたりする仕組みを学ぶ。	1. 消化管各部の構造と消化・吸収のメカニズムを学ぶ。 2. 骨の基本構造と全身の骨、および骨の生理学的基礎知識を学ぶ。	1. ガイダンス 2. 体の支持と運動 ①姿勢 ②骨格 ③骨格筋 ④運動 3. 栄養の消化と吸収 ①食欲 ②咀嚼の過程 ③嚥下の過程 ④胃の構造と機能 ⑤小腸の構造と機能 ⑥肝臓と胆のうの構造と機能 ⑦膵臓の構造と機能 ⑧糖質・脂肪・蛋白質の消化と吸収 ⑨大腸の構造と機能	生化学 栄養学 臨床薬理学 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ
	解剖生理学 IV (1単位 30時間)	人体を系統立てて理解し、健康と疾病、傷害の理解の基礎とする。また呼吸と血液の循環、体温調節と尿生成の生理作用を理解し、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。ここでは情報を収集して判断し、伝達するしくみと人体内部の環境を整えるしくみの観点から学ぶ。	1. 身体の情報伝達を担う神経系の基本構造と神経生理学の基礎知識を学ぶ。 2. 視覚・聴覚・平衡覚・臭覚・味覚を受容する感覚器の基本構造と生理学的基礎知識を学ぶ。 3. 自律神経と内分泌器官の構造と生理学的基礎知識を学ぶ。	1. ガイダンス 2. 情報の受容と処理 ①神経組織 ②中枢神経系の構造と機能 ③末梢神経系の構造と機能 ④眼の構造と視覚の伝導路と認識・眼球運動 ⑤耳の構造と聴覚、平衡覚 ⑥味覚と臭覚の受容体の構造 ⑦皮膚の感覚受容器と皮膚感覚の種類 3. 内臓機能の調節 ①自律神経の機能・構造・神経伝達物質と受容体 ②ホルモンの種類とホルモン分泌の調節 ③内分泌機関の構造とホルモン機能	生化学 栄養学 臨床薬理学 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	生化学 (1単位 15時間)	生体の成り立ちと生体を構成する基本物質及び細胞の役割と内部環境の恒常性について学ぶ。	生体の成り立ちと生体を構成している基本物質に関わり、蛋白質の特性、酵素の性質と働き、糖質、脂質及びアミノ酸、蛋白質代謝、核酸の性質と働き、体液の成分、内部環境の恒常性について学ぶ。	1. 生体の成り立ちと生体分子 2. 蛋白質の性質 3. 酵素の性質と働き 4. 生体内における糖質の代謝 5. 生体内における脂質の代謝 6. 生体内におけるアミノ酸と蛋白質代謝 7. 生体内における核酸の役割 8. 体液 9. ホルモン 10. ビタミン 11. 内部環境の恒常性	生物学 解剖生理学 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 臨床薬理学
	病態学総論 (1単位 30時間)	疾患の原因と疾患による生体変化の特徴および形態機能の病態機序を理解する。	1. 身体の障害された機能が全身に及ぼす影響を理解する。 2. 疾病の成り立ち、機序を形態面から理解する。 3. 器官・組織・細胞の形態変化と機能異常を関連づけ理解する。	1. 病態学で学ぶこと 2. 先天異常と遺伝子異常 3. 代謝障害 4. 循環障害 5. 炎症と免疫、膠原病 6. 感染症 7. 腫瘍 8. 老化と死	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 臨床薬理学 専門分野
	微生物学 (1単位 30時間)	病原微生物に特徴を捉え、感染・発症のメカニズムを正しく理解し、観察とアセスメントについての基本的な知識習得をねらいとする。	1. 細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質を理解する。 2. 感染の成立と発症のメカニズムおよび感染症の予防について理解する。 3. 個々の病原微生物の特徴と感染症について理解する。	1. 微生物の性質 2. 細菌の性質 3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質 6. 感染と感染症 7. 感染症予防 8. 病原細菌と細菌感染症 9. 病原真菌と真菌感染症 10. 病原原虫と原虫感染症 11. ウイルスとウイルス感染	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態学総論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 臨床薬理学 専門分野

専門基礎分野	病態治療論 I (1単位 30時間)	病態とは、疾患の原因である病的な状態或いはその発生機序を言う。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、患者に出現している症状や兆候を観察し疾患や治療が及ぼす影響をとらえることが必要である。 ここでは呼吸器疾患・循環器疾患の病態・検査・治療について学ぶ。	1. 呼吸器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響が理解できる。 2. 循環器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響が理解できる。	1. 呼吸器の主要症状と病態生理 ①咳嗽 ②喀痰 ③血痰 ④胸痛 ⑤呼吸困難 ⑥チアノーゼ 2. 主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①肺炎 ②間質性肺炎 ③気管支喘息 ④慢性閉塞性肺疾患 ⑤呼吸不全 ⑥肺腫瘍 ⑦肺結核 ⑧自然気胸 3. 循環器の主要症状と病態生理 ①胸痛 ②動悸 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ ⑥ショック 4. 主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①労作性狭心症 ②急性心筋梗塞 ③心不全 ④血圧異常 ⑤不整脈 ⑥弁膜症 ⑦心筋症 ⑧大動脈瘤	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態学総論 臨床薬理学 専門分野
	病態治療論 II (1単位 30時間)	病態とは、疾患の原因である病的な状態或いはその発生機序を言う。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、患者に出現している症状や兆候を観察し疾患や治療が及ぼす影響をとらえることが必要である。 ここでは消化器疾患・代謝・内分泌疾患の病態・検査・治療について学ぶ。	1. 消化器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。 2. 代謝・内分泌疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。	1. 消化器の主要症状と病態生理 ①嚥下困難 ②悪心・嘔気・嘔吐 ③腹痛 ④吐血下血 ⑤下痢 ⑥便秘 ⑦腹水・腹部膨満 ⑧黄疸 ⑨意識障害 2. 消化器の主たる病態生理・症状・検査・処置・治療 ①悪性腫瘍 ②肝炎 ③肝不全 ④イレウス 3. 代謝・内分泌の主要症状と病態生理 ①高血糖症状 ②多尿 ③意識障害 ④甲状腺腫 ⑤頻脈 ⑥眼球突出 ⑦易疲労感・倦怠感 ⑧発熱 4. 代謝・内分泌の主たる病態生理・症状・検査・処置・治療 ①糖尿病 ②脂質異常症 ③甲状腺疾患	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態学総論 臨床薬理学 専門分野
	病態治療論 III (1単位 30時間)	病態とは、疾患の原因である病的な状態或いはその発生機序を言う。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、患者に出現している症状や兆候を観察し疾患や治療が及ぼす影響をとらえることが必要である。 ここでは脳神経疾患・運動器疾患の病態・検査・治療について学ぶ。	1. 脳神経疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。 2. 運動器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。	1. 脳神経の主要症状と病態生理 ①運動障害 ②言語障害 ③嚥下障害 ④排泄障害 ⑤意識障害 ⑥頭蓋内圧亢進症状 ⑦高次脳機能障害 2. 脳神経の主たる病態生理・症状・検査・処置・治療 ①脳血管疾患 ②脳腫瘍 ③頭部外傷 ④水頭症 ⑤パーキンソン病 ⑥筋萎縮性側索硬化症 ⑦重症筋無力症 3. 運動器の主要症状と病態生理 ①神経麻痺 ②疼痛 ③腫瘍 ④運動麻痺 ⑤知覚障害 ⑥変形 ⑦歩行障害 4. 運動器の主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①骨折・脱臼・捻挫・打撲	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態学総論 臨床薬理学 専門分野
	病態治療論 IV (1単位 30時間)	病態とは、疾患の原因である病的な状態或いはその発生機序を言う。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、患者に出現している症状や兆候を観察し疾患や治療が及ぼす影響をとらえることが必要である。 ここでは血液・造血器疾患、腎疾患、免疫・アレルギー疾患の病態・検査・治療について学ぶ。	1. 血液・造血器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。 2. 腎疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。 3. 泌尿器・男性生殖器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。 4. 免疫・アレルギー疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要とそれらが生体に及ぼす影響について理解できる。	1. 血液・造血器の主要症状と病態生理 ①貧血 ②出血傾向 ③発熱 ④リンパ節腫脹・脾腫 2. 血液・造血器疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①鉄欠乏貧血 ②溶血性貧血 ③再生不良性貧血 ④白血病 ⑤悪性リンパ腫 ⑥多発性骨髄腫 ⑦出血性疾患 3. 腎の主要症状と病態生理 ①浮腫 ②尿毒症 ③酸塩基平衡異常 ④高血圧 4. 腎の主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①腎不全・尿毒症 ②ネフローゼ症候群 ③腎炎 ④腎硬化症 ⑤腎がん 5. 泌尿器・男性生殖器の主要症状と病態生理 ①尿の異常 ②畜尿異常 ③勃起不全 6. 泌尿器・男性生殖器の主たる疾患の病態生理・症状・検査・処置・治療 ①尿管結石 ②膀胱炎 ③前立腺肥大症 ④膀胱がん ⑤前立腺がん 7. 免疫・アレルギーの主要症状と病態生理 ①アレルギー ②皮膚炎 ③アナフィラキシー 他	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態学総論 臨床薬理学 専門分野

専門基礎分野	病態治療論Ⅴ (1単位 30時間)	病態とは、疾患の原因である病的な状態或いはその発生機序を言う。看護師が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、患者に出現している症状や兆候を観察し疾患や治療が及ぼす影響をとらえることが必要である。 ここでは女性生殖器疾患、乳腺疾患、歯・口腔器疾患、感覚器疾患の病態・検査・治療について学ぶ。	①女性生殖器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と生体に及ぼす影響について理解する。 ②乳腺疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と生体に及ぼす影響について理解する。 ③歯・口腔疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と生体に及ぼす影響について理解する。 ④感覚器疾患の病態生理・検査・処置・治療の概要と生体に及ぼす影響について理解する。	1. 女性生殖器の主要症状 ①下腹部痛 ②性器出血 ③月経異常 ④帯下 2. 女性生殖器の主な疾患と病態生理 ①子宮筋腫 ②膣炎 ③卵巣嚢腫 ④卵巣がん 3. 乳腺の主要症状と病態生理と疾患 ①皮膚所見 ②疼痛 ③腫瘍 ④乳がん ⑤乳腺症 4. 歯・口腔の主要症状と病態生理と疾患 ①疼痛 ②腫脹 ③欠損 ④言語障害 ⑤味覚障害他 ⑥齦歯 ⑦歯肉炎 5. 感覚器一眼の主要症状と病態生理と疾患 ①視力障害 ②視野異常 ③飛蚊症 ④充血 ⑤白内障 ⑥緑内障 ⑦網膜剥離 ⑧屈折異常他 6. 感覚器一耳鼻咽喉の主要症状と病態生理 ①難聴 ②耳鳴 ③眩暈 ④嘔声 ⑤慢性中耳炎 7. 感覚器一皮膚の主要症状と病態生理 ①掻痒感 ②原発疹 ③蕁麻疹 ④白癬 ⑤熱傷	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態学総論 臨床薬理学 専門分野
	治療総論Ⅰ 一医療概説 (1単位 4時間)	病気を診断し治療を行うことで治癒と症状緩和を目指し、健康問題を軽減させる。看護師が対象の回復過程を支援するために医師の行う診断治療についての理解は不可欠である。ここでは医療の歴史と現状について学び、現代の医療に求められるチーム医療について理解する。	医療の歴史と現状について理解でき、医療に従事するものとしての知識と心構えを養うことができる。	1. 保健・医療・介護一切れ目のないサポートの実現 ①社会環境の変化 ②救急医療・集中治療 ③チーム医療 2. 医療と社会 ①医の倫理 ②最先端医療 ③医療情報	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学
	治療総論Ⅰ 一放射線医学 (1単位 12時間)	治療総論Ⅰは「医療概説」「放射線医学」「リハビリテーション」で構成される。病気を診断し治療を行うことで治癒と症状緩和を目指し、健康問題を軽減させる。看護師が対象の回復過程を支援するために医師の行う診断治療についての理解は不可欠である。ここでは、医療における放射線医学の役割を学び、画像診断・放射線治療・放射線防護についての基礎的知識を得ることをねらいとする。	医療における放射線医学の役割がわかる。 放射線の種類と性質がわかる。 放射線による生涯と防護がわかる。 画像診断の特徴がわかる。 放射線治療の特徴と目的及び照射法がわかる。 放射線による有害反応がわかる。	画像診断 1. 放射線とは 2. 医療における放射線医学の役割 3. 画像診断の特徴 4. 放射線防護 放射線治療 5. 放射線治療の原理と基礎 6. 放射線治療による有害反応 7. 放射線治療の特徴と目的及び照射法の種類	生物学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学 専門分野
	治療総論Ⅰ 一リハビリテーション (1単位 12時間)	病気を診断し治療を行うことで治癒と症状緩和を目指し、健康問題を軽減させる。看護師が対象の回復過程を支援するために医師の行う診断治療についての理解は不可欠である。ここではリハビリテーション医療の特徴と役割について学び、障害を持つ人の生活の質向上のアプローチを学ぶ。	リハビリテーションの定義・目的がわかる。 国際生活機能分類とその構成要素がわかる。 リハビリテーションの展開と方法がわかる。	1. リハビリテーションとは ①概念と意義 ②対象と場 2. リハビリテーションの展開と方法 ①ボデイメカニクスと運動機能評価 ②日常生活動作のリハビリテーション ③自助具 3. 理学療法・作業療法・言語療法の特徴 ①脳血管疾患 ②急性心筋梗塞 4. 多職種によるチームアプローチ	生物学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学 専門分野
	治療総論Ⅱ 一手術療法と麻酔・救急 (1単位 20時間)	手術は生体への侵襲を伴う治療法である。看護師は周手術期において対象の意思の尊重と手術の安全な進行及び術後の順調な回復を促進する役割がある。 ここでは手術療法の特徴と侵襲に夜生体反応、手術と関連する麻酔についての知識、救急医療の特徴について学ぶ。	手術療法の目的及び手術侵襲に対する生体反応・機序がわかる。 侵襲からの回復過程における炎症反応及び創の治癒過程がわかる。	1. 手術侵襲と生体反応の機序 2. 手術療法と炎症・感染症、創の治癒過程 3. 麻酔の目的と適用 4. 麻酔の種類と管理 5. 外科的治療を支える分野 ①呼吸・体液・栄養・輸血管理 6. 救急医療の特徴と対象	生物学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学 専門分野
	治療総論Ⅱ 一ME機器の基礎 (1単位 8時間)	今日、医療技術の進歩と情報通信技術の発展に伴い、様々な医療電子機器（ME機器）が開発されている。ここではME機器の役割と意義を知り、代表的な診断用機器と治療機器についてその原理と取り扱い、案苑管理についての基礎知識を学ぶ。	現代医療におけるME機器の役割と意義がわかる。 医療機器の種類と適用がわかる。 医療機器の原理と取り扱いに関する基礎知識がわかる。	1. 現代医療におけるME機器の役割と意義 2. ME機器の種類と原理、取り扱いと管理 ①電気メス ②心電計 ③パルスオキシメーター ④人工呼吸器 ⑤血液浄化装置 ⑥除細動器 3. 保守管理の必要性と看護師の役割	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学 専門分野
	栄養学 (1単位 15時間)	対象者が健康な生活を送るために正しい情報を選択、支援することが看護師の役割で、栄養学を学ぶことは対象者の病態や栄養状態を改善し、疾病の予防や治療、健康増進としての支援につながる。発達段階や健康状態に応じた栄養摂取の考え方や摂取のあり方を学ぶ。	1. 人間の健康と栄養について理解できる。 2. 食生活や栄養状態の現状を理解できる。 3. 食物を栄養レベルで理解できる。 4. ライフステージにあわせた適切な栄養管理について理解する。 5. 栄養と疾病の関連について理解する。 6. 食事指導を行う方法を理解する。	1. 健康と栄養 2. 日常生活と栄養 3. 食物と栄養 4. ライフステージと健康教育 5. 疾病と栄養 6. 食事指導の実際 7. 調理実習	生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野
	臨床薬理学 (1単位 30時間)	今日の医療現場で行われている薬物療法の実際を通し、そこで行われる薬剤に関する知識や技術を習得することを狙いとし、薬物を正しく安全に患者に適用する看護を学ぶ。	1. 薬物療法と薬物動態を理解する。 2. 各種薬剤の臨床応用及び副作用を理解する。 3. 薬剤投与後の身体の変化を理解する。	1. 総論 ①薬理学とは ②薬理の基礎知識 2. 各論 ①対象療法の臨床薬理学1 ②対象療法の臨床薬理学2 ③循環器系に作用する薬物 ④呼吸器系に作用する薬物 ⑤消化器系に作用する薬物 ⑥内分泌系に作用する薬物 ⑦中枢神経系に作用する薬物 ⑧末梢神経に作用する薬物 ⑨抗感染症薬 ⑩抗悪性腫瘍薬 ⑪抗炎症薬	生物学 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野

専 門 基 礎 分 野	臨床心理学 (1単位 30時間)	看護師は、対人援助の専門職として対象者との人間関係を形成する能力を身につける必要がある。ここでは、人間に対する幅広い視点を持つよう、人間や自己についての理解を深め、「こころ」への援助のあり方と看護実践の応用について学ぶ。表に見える行動から「気持ち」や「感情」といったこころの状態を推測しながら関係性を構築するためのアプローチ方法を学ぶ。また自己を知覚し理解するための自己洞察力を身につける。	1. 自分を知覚し理解するための自己洞察の意義が理解できる。 2. 自己洞察する力を身につける。 3. カウンセリング理論を学び、基本的技法を身につける。 4. 対象の状況に応じたアプローチをするためのコミュニケーションがわかる。	1. こころとはなにか ①自己洞察とは ②自己一致と自己開示 ③プロセスレコード 2. 日常の何気ない相手との会話から心の姿に気づく 3. 医療行為をめぐる患者との会話から心の姿に気づく 4. カウンセリングの態度を看護に活かす 5. 揺さぶられつつも「逃げない覚悟」をもった看護とはA・B 6. 様々な精神療法	哲学 社会学 教育学 心理学 家族関係論 専門分野
	病気を診る 看護 (1単位 30時間)	看護は医学的、病理学的な方向からのみ病気を捉えるのではなく、日々の暮らしや生活の変化として病気を診る必要がある。人間は発達段階によって患いや病気があり、細胞や組織の衰えで引き起こされる病気、不可逆的な細胞の崩壊によって起る病気など、ライフサイクルの線上に健康の変化としてとらえる診方が看護には必要である。病気がもたらす生活上の変化や影響を診ることを学ぶ。	1. 外界からもたらされる病気、生活習慣の中で内部環境が変化する病気、細胞の衰えで引き起こされる不可逆的な病気と病気にかかる人体の形態や機能変化がわかる。 2. ライフサイクルの発達段階の中で起こる病気がもたらす生活への影響や変化がわかる。	1. 感染症を診るー感染症の小児の身体変化と生活への影響 2. 呼吸・循環の病気を診るー急性期に起こる身体機能変化と生活への影響 3. 脳の病気を診るー認知の障害で影響される生活の変化 4. こころを診るーこころの障害で影響される社会生活 5. 内部環境を診るー内分泌疾患で影響される生活 6. 消化・吸収を診るー消化器の病気で変わる排泄機能 7. 生命の連続性を診るー母子の繋がりを助ける看護	生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 治療総論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
	社会福祉 (1単位 30時間)	「保健・医療における多職種連携は異なった職業背景をもつ複数の人々が患者やその家族、サービス提供者や地域と一緒にそれぞれの枠組みを超えて最高のサービスを包括的に提供するところに存在するものである」とWHOは定義している。社会福祉・社会保障の基本概念と社会資源について理解し、地域で他職と協働する能力を培うことがねらい。	1. 社会福祉・社会保障の必要性がわかる。 2. 看護師が社会保障・社会福祉を学ぶ意義が理解できる。 3. 社会福祉のしくみ、実践方法について理解できる。 4. ライフサイクル別に見た諸制度について理解できる。 5. 生活保護・社会保険制度について理解できる。	1. 社会福祉・社会保障を学ぶ意義 2. 社会保障と社会福祉 3. ライフサイクル別にみた社会福祉 4. 地域包括ケアシステムー連携の必要性 5. 生活保護ー公的扶助制度 6. 社会保険制度 ①年金 ②医療保険 ③介護保険 ④雇用保険 ⑤労災保険	社会学 家族関係論 関係法規 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	関係法規 (1単位 15時間)	対照が人間である看護においては基礎分野における社会環境との相互作用を繰り返すという人間の理解に加えて、人間の尊厳と対象の権利を守るために法の理解が重要である。看護に関する法律を学ぶことで専門職業人としての責任を自覚し看護を受ける対象の権利擁護につながることを学ぶ。	1. 法の概念が理解できる。 2. 医療関係法規の概要が理解できる。 3. 看護活動と関連する関係法規が理解できる。	1. 法の概念 2. 医療法 3. 看護をめぐる人に関する法律 4. 看護をめぐる物・場所に関する法律 5. 保健衛生法規	社会学 保健医療論 専門分野
	保健医療論Ⅰ (1単位 15時間)	様々な法制度を基に保健衛生のための対策が行われることで、人々の健康は支えられている。基本となる公衆衛生に関する法律・制度を学習し、保健医療Ⅱの地域における保健活動の実際を理解する基壇を学ぶ。	1. 公衆衛生の概念を理解する。 2. 疫学の基本的な考え方を理解する。 3. 公衆衛生施策の概要を理解する。 4. 感染症予防の原則と感染症対策に関する法令を理解する。 5. 学校保健の概要と基本法令を理解する。 6. 産業保健の概要と対策を理解する。 7. 人々の健康に影響する環境法令を理解する	1. 公衆衛生の理念・概念 2. 疫学的方法による健康の理解・健康指標 3. 地域における公衆衛生の基盤となる法律・制度 4. 感染症対策とその基盤となる法律・制度 5. 学校保健とその基盤となる法律・制度 6. 産業保健とその基盤となる法律・制度 7. 環境保健とその基盤となる法律・制度	社会学 家族関係論 微生物学 社会福祉 関係法規 保健医療論Ⅱ 専門分野
	保健医療論Ⅱ (2単位 30時間)	看護師は人々の健康の保持・増進を目指して支援する職業であるため、人々の健康維持のために行われる集団への公的な関わりを知ることは重要である。健康を守るための組織的な活動のあり方について概要を学び、人々を取り巻く環境が与える健康への影響、疾病予防、地域の健康増進に至る幅広い知識を学ぶ。	1. 保健行政の基本的考え方を理解する。 2. 地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の概要について理解する。 3. 地域看護・在宅看護の場における看護活動を理解する。 4. 地域における看護の継続性について理解する。	1. 地域における公衆衛生活動 2. 市町村保健センターの役割と活動の実際 3. 母子保健の基盤となる法律制度と活動 4. 高齢者保健の活動の実際 5. 成人保健の活動の実際 6. 成人保健の動向・傾向 7. まとめ	社会学 家族関係論 微生物学 社会福祉 関係法規 保健医療論Ⅰ 専門分野
領 域 横 断	終末期を生きる人々への看護 (2単位 30時間)	全人的な視点から対象理解を基盤とし、終末期を生きる人々を発達段階の特徴から捉え、緩和ケアや症状マネージメント・グリーフケアについて教授する。併せて超高齢多死社会を迎える日本における「死」の概念についても考えられるようにする。死は様々な形があり、それぞれに意味あることがわかり尊厳あるその人らしい最期を迎えるための意思決定支援の重要性について理解する。	1. 終末期にある対象の特徴がわかる。 2. 全人的苦痛の理解と苦痛緩和に向けた援助がわかる。 3. 対象を支える家族の役割がわかる。 4. 対象の意思決定支援における家族及び多職種連携の実際がわかる。 5. 対象の尊厳を守る看取りのあり方がわかる。 6. 残された人々へのケアのあり方がわかる。 7. 死生観が深められる。	1. 終末期を生きる人々への看護 ①現在社会の死生観 ②症状マネージメント ③疼痛緩和 ④意思決定支援 2. 臨終における看護 ①看取りの援助 ②死後の処置 ③事例 ④事例	心理学 哲学 教育学 社会学 家族関係論 臨床心理学 専門分野
	看護を展開する思考技術 (1単位 30時間)	看護師には対象の変化や反応を直感的にとらえ、即時に対応していくための臨床判断が必要である。「臨床判断」と「看護過程」の思考過程の概要を教授し、看護実践における重要性和意義及び相違点を理解する。	1. 看護過程と臨床判断の思考の理解 2. 看護に必要な思考 3. 科学的根拠に基づくアセスメント 4. 対象の変化や反応への気づき 5. 気づきの意味 6. 領域に特徴的なアセスメントの視点	1. 看護過程とは 2. ウェルネスの思考 3. 自宅インタビューとフィジカルイグザミネーション 4. プロセスレコード 5. アセスメントの視点 6. 子どもの発達段階でのアセスメント	論理的思考 社会学 心理学 教育学 家族関係論 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護

領域横断	健康回復を支える看護Ⅰ (1単位 15時間)	この科目では解剖学と病態学、病気を診る看護の知識を基に、患者の訴え、症状から情報を得て気づき、判断して行動する力を養うシミュレーションの学習を行う。知識を記憶する学習にとどまらず、知識を使って行動し、対象の健康回復と生活自立への看護を想像する力を身につけることがねらいである。	1. フィジカルアセスメントの知識を活用して全身状態を観察し、場面の事例に目標に沿った計画を立てる。 2. 病気の経過別に起る反応に気づき、何が起っているのか判断し行動する。 3. 事例ごとのリフレクションを通して、気づき、判断、行動の全体の自己の課題を見出す。	1. ガイダンス 2. 誤嚥性肺炎患者の観察と対処 3. 大腸がん患者の手術後の全身状態観察 4. Ⅰ型糖尿病患者の観察と対処 5. 心不全・弁膜症患者の観察と対処 6. 在宅の脳血管疾患患者の観察 7. まとめ	看護を展開する思考技術 フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 専門分野
	健康回復を支える看護Ⅱ ：周手術期 (1単位 30時間)	この科目は、治療を目的として医療施設に入院し、手術療法を受ける人々に対する看護を学ぶ。手術の安全な信仰のために前・中・後において患者の心理状態を把握・調整しチーム医療が効果的に行われるようにコーディネーターの役割を担う。	1. 術前・中・術後を通して体の変化を理解する。 2. 術後の体の変化をアセスメントし、術前・中・術後の看護がわかる。 3. 発達段階や対象に応じた周手術期間後がわかる。	1. 周手術期の看護の概要と看護師の役割 2. 手術侵襲と生体反応 3. 術後合併症の理解 4. 術前看護 5. 術中看護 6. 7. 8. 術後看護 9. 特殊な環境下における術式と術後看護 10. 手術を受ける高齢者の特徴と看護 11. 手術を受ける子どもと家族の特徴と看護 12. 帝王切開を受ける女性の看護 13. まとめ	看護を展開する思考技術 フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 専門分野
	健康回復を支える看護Ⅲ ：薬物療法と看護 (1単位 30時間)	「臨床薬理学」で学んだ基礎的知識を基に薬物療法の特徴と対象に及ぼす影響を理解し、必要な看護を学ぶ。	1. 薬物の剤形とその特徴に応じた指導方法がわかる。 2. ハイリスク患者に対する看護がわかる。 3. 対象に応じた自己管理の指導方法がわかる 4. 服薬支援における援助の視点がわかる。 5. がん化学療法における看護の特徴がわかる 6. 薬物管理における支援がわかる。	1. 薬物療法と看護の基礎知識 2. 対象に応じた自己管理 3. 服薬支援と与薬 4. がん化学療法を受ける患者の看護 5. 事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物管理 6. まとめ	看護を展開する思考技術 フィジカルアセスメント 臨床薬理学 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 専門分野
	地域で暮らす人々への看護 (1単位 15時間)	暮らしの視点を踏まえた看護を実践するためには、看護の対象のとらえ方を「病院で療養する人々」から「地域で暮らす人々」へと転換する必要がある。人の障害を通して地域で暮らすための様々な法律制度を学ぶ。	1. 人が生涯を通し地域で暮らすための環境・法律と施策・制度を学ぶ。	1. 生まれてからなくなるまでの環境・法律と施策、制度 2. 高齢になって地域での暮らしを支えるための仕組み 3. 自宅で最期まで暮らすための地域包括ケアシステム 4. 人の暮らしを支える支援 5. まとめ	病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 家族関係論 病気を診る看護 社会福祉 関係法規 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	健康と暮らしを守る看護 (1単位 30時間)	この科目では一次予防を含めた健康の保持増進を支援する看護、暮らしの営みを継続する力を支援する看護および健康支援の基礎となる理論について教授し、自助を支える健康の保持増進のための看護の基礎を学ぶ。	1. 健康と暮らしを守るための支援を理解する。 2. 健康支援の基盤となる概念・理論を理解する。 3. 対象の発達段階や状況に応じた健康の保持・増進・疾病予防・健康への回復に関わる看護が考えられる。	1. 健康と暮らしを守るためには 2. 効果的に健康支援を行うためには 3. 心のヘルスプロモーション 4. 成人期のヘルスプロモーション 5. 老年期のヘルスプロモーション 6. 女性のヘルスプロモーション 7. 対象に応じた健康と暮らしを守る看護を考える 8. まとめ	病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
基礎看護学	看護学概論 (1単位 30時間)	この科目では、人間・環境・健康・看護の概念について理解する。さらに看護の役割と機能、看護を提供スルバについて学ぶ。看護への関心を高め、看護とはなにかについて追及する姿勢を養う。	1. 看護の概念を理解し、目的・機能を学ぶ 2. 健康の概念を菓子、意義を考える。 3. 人間と環境の相互作用について学ぶ。 4. 看護の理論家と理論について学ぶ。 5. 対象の療養環境に応じた看護の全体の流れを理解する。	1. 看護とは何か 2. 健康と看護 3. 対象となる人間について考える 4. 看護の変遷 5. 看護理論 6. 看護の展開と継続性	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 文化人類学 専門分野
	看護倫理 (1単位 15時間)	医療・看護の現場で直面する倫理的課題と倫理の概念について学習し、看護者として人間として生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための基本的能力を養う。	1. 看護の倫理原則を理解する。 2. 看護実践の倫理的課題を理解する。 3. 事例を通して倫理的課題について考え対話し解決の方策を見出す。	1. 倫理の基礎 2. 職業倫理としての看護倫理 3. 医療をめぐる歴史的経緯 4. 現代医療における倫理課題 5. 看護実践現場での倫理的ジレンマ 6. 事例をとおして考える	論理的思考 哲学 心理学 看護学概論 家族関係論 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学
	共通基本技術Ⅰ (1単位 30時間)	あらゆる看護場面、対象に共通する技術を学ぶ。	1. 看護技術の概念と特徴の理解 2. 看護実践における関係性成立に必要な知識と技術の習得 3. 対象の現状を把握し、情報として活用するための技術と看護実践の原則である安全・安楽。自立の技術習得	1. 看護技術の概念と独自性 2. コミュニケーションの概念と基本技術 3. 安全管理 4. 安楽確保 5. 指導・教育技術 6. 感染予防	教育学 生活科学 微生物学 看護学概論 臨床心理学 家族関係論 専門分野
	共通基本技術Ⅱ ：フィジカルアセスメント (1単位 30時間)	解剖生理学の知識を活用し、対象の健康状態を評価する意義と身体の情報を読みとらえ、正常・異常を判断していく技術を習得するとともにアセスメントする力を養う。	1. ヘルスアセスメントの概要がわかる 2. フィジカルアセスメントのの基本がわかる 3. バイタルサインを正確に測定できる 4. 身体計測を正しくできる 5. 身体機能別にフィジカルアセスメントの方法がわかる	1. フィジカルアセスメントとは 2. バイタルサインの意義と測定方法 3. バイタルサイン測定の演習 4. フィジカルアセスメントの方法1 5. フィジカルアセスメントの方法2 6. バイタルサイン測定の演習1 7. バイタルサイン測定の演習2	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野

基礎看護学	日常生活を支援する技術Ⅰ (1単位 30時間)	日常生活の中で栄養(食べる)と排泄(トイレに行く)することの意義から健康との関わりを知り、対象や場に応じた援助を科学的根拠に基づき実践する知識・技術・態度を学ぶ。	1. 解剖生理学的な人間の身体機能に基づく根拠を理解する。 2. 援助の必要性を理解する。 3. 観察しながらの援助 4. 安全・安楽・自立を基本とした援助 5. 演習での患者体験を通して必要な態度を身につける。	1. 栄養 ①食の意義 ②食事指導 ③アセスメント ④水分出納 ⑤介助の目的・方法 ⑥演習 ⑦経管栄養 2. 排泄 ①排泄の意義 ②メカニズム ③自然排泄の援助 ④便器・尿器の援助 ⑤おむつ交換 ⑥洗腸 ⑦留置カテーテルの観察 ⑧導尿	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 生化学 栄養学 専門分野
	日常生活を支援する技術Ⅱ (1単位 30時間)	日常生活の中で対象が身を置く環境、動作の基本となる体位・運動、休息・睡眠について対象や場に応じた援助を根拠に基づき実践する知識・技術・態度を学ぶ。	1. 解剖生理学的な人間の身体機能に基づく根拠を理解する。 2. 援助の必要性を理解する。 3. 観察しながらの援助 4. 安全・安楽・自立を基本とした援助 5. 演習での患者体験を通して必要な態度を身につける。	1. 環境調整技術 ①人間にとっての環境 ②病床環境 ③ベッドメイキング ④臥床患者のシーツ交換 2. 活動と休息援助技術 ①活動休息の意義 ②ボデイメカニクス ③移乗・移送援助技術 ④体位変換 ⑤休息と睡眠	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 専門分野
	日常生活を援助する技術Ⅲ (1単位 30時間)	日常生活の中で対象の清潔について対象や場に応じた援助を根拠に基づき実践する知識・技術・態度を学ぶ。	1. 解剖生理学的な人間の身体機能に基づく根拠を理解する。 2. 援助の必要性を理解する。 3. 観察しながらの援助 4. 安全・安楽・自立を基本とした援助 5. 演習での患者体験を通して必要な態度を身につける。	1. 清潔・衣生活援助技術 ①清潔の意義 ②部分浴 ③全身清拭 ④入浴 ⑤整容 ⑥陰部洗浄 ⑦衣生活 ⑧寝衣交換	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 専門分野
	治療・処置に伴う援助技術 (1単位 30時間)	無菌操作、創傷管理技術、症状・生体機能管理技術、呼吸・循環を整える技術についての看護援助を学ぶ。	1. 治療・処置・検査に伴う援助の必要性と原理原則に基づく性格で確実な看護技術について理解する。 2. 治療・処置・検査に伴う看護技術を正確・買う実を実施する。 3. 治療・処置・検査を受ける患者の真理を理解し苦痛とプライバシーに配慮する。	1. 無菌操作 2. 創傷管理技術 3. 症状・生体機能管理技術 4. 呼吸・循環を整える技術 5. 静脈血採血	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 微生物学 専門分野
	与薬に伴う援助技術 (1単位 30時間)	治療や処置の際に看護師が関わるが多い与薬に伴う看護援助について実施することを学ぶ。	1. 与薬に伴う援助の必要性と原理原則に基づく正確、確実な看護技術について理解する。 2. 与薬に伴う看護技術を正確・確実に実施する。 3. 与薬を受ける患者の心理を理解し苦痛とプライバシーに配慮する。	1. 与薬時の基礎知識・看護師の役割と責任 ①経口与薬 ②経皮的与薬 ③坐薬 ④バイアル・アンプルの取り扱い ⑤筋肉注射演習 ⑥皮下注射 ⑦皮内注射 ⑧静脈注射 ⑨点滴静脈内注射と管理 ⑩中心静脈栄養実施の介助・管理 ⑪輸液ポンプ・シリンジポンプ操作	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 臨床薬理学 専門分野
	看護研究の基礎 (1単位 30時間)	看護研究の一連の過程を踏むことで探求する面白さを知るとともに多角的視点から客観的・批判的に考察する力を養う。	1. 看護研究の意義・目的の基礎を学び、看護実践における研究の重要性を理解する 2. 自ら関心のある研究テーマを設定し、取り組む。 3. 一連の研究プロセスを体験することにより多角的視点から客観的・批判的に考察する。	1. 看護研究とは 2. 文献の使い方・検索方法 3. 研究の実施 4. 演習 5. 研究成果の発表	論理的思考 情報科学 専門分野
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論 (1単位 15時間)	看護学概論の知識を想起し、「一生を地域で暮らすための支えあい」を考え、支えるための看護者の役割を学ぶ。	1. 人間は暮らしの中で健康に対する希望を持つことを理解する。 2. 地域・在宅看護が推進する社会背景を理解する。 3. 地域・在宅看護の変遷を知る。 4. 対象の多様性を踏まえたQOL向上の支援を考える。	1. 2. 暮らすということ 3. 4. 地域という場の特徴 5. 医療的ケア児とその家族が暮らすこと 6. 地域・在宅看護の概念 7. 地域・在宅における対象と家族、取り巻く人々の支援	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
	地域・在宅看護方法論Ⅰ (1単位 15時間)	対象の「暮らすこと、生きること」を支えるためには予防的な側面からとらえることや、対象の生活を支えるためのシステムや施策を視野に入れ、問題解決思考を用いた看護実践が必要である。地域の人々を支えるための多職種連携・多機関連携における看護師の役割を学ぶ。	1. 地域・在宅療養者の動向を理解する。 2. 地域・在宅看護の目的や看護の特徴を理解する。 3. 地域包括ケアシステムの意義を理解する 4. 訪問看護ステーションの役割を理解する 5. 地域・在宅看護のケアマネジメントの必要性がわかる	1. 2. 地域・在宅の対象と家族、取り巻く人々の支援 3. 地域・在宅看護を支える法制度と社会資源 4. 5. 地域包括ケアにおける在宅看護 6. 7. ケースマネジメント	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
	地域・在宅看護方法論Ⅱ (1単位 15時間)	生活を理解し、医療を生活になじませ、自律を支援するための看護を学ぶ。また健康問題の解決を含めたQOLは対象の意思を尊重して生活に合わせた看護を多職種と連携して実践することを学ぶ。	1. 地域・在宅看護に関する基本理念を理解する。 2. 地域・在宅看護における看護活動を理解する。	1. 在宅看護を展開する基本理念 2. 3. 在宅看護における倫理 4. 5. 6. 7. 地域・在宅看護介入の特徴 ①ストーマ管理を開始する療養者 ②誤嚥性肺炎を発生した療養者の看護 ③看取り看護	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
	地域・在宅看護方法論Ⅲ-1 (1単位 15時間)	自宅の多様な状況で倫理的な配慮と安全性を確保し、自宅での環境や対象の状況に合わせた日常生活の援助技術を学ぶ。	1. 地域・在宅看護における日常生活を整える援助を理解する。 2. 地域・在宅看護における日常生活を整える社会資源を理解する。	1. 2. 移動と移乗・環境整備・清潔に関する看護技術と社会資源活用 3. 4. 食生活と嚥下・排泄・服薬管理に関する看護技術と社会資源活用 5. 6. 清潔と衣生活に関する看護技術 7. 活動と休息に関する看護技術	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
	地域・在宅看護方法論Ⅲ-2 (1単位 15時間)	在宅では限られた資源で経済性を考慮した簡易な方法で医療ケアが実施される。対象に必要な医療処置について、原則を保ちながら継続できる方法やリスク管理、療養生活を安全に送るための援助技術を学ぶ。	1. 在宅で行われる医療ケアの原理原則がわかる。 2. 呼吸管理の医療ケアがわかる。 3. 栄養管理の医療ケアがわかる。 4. 排泄に関する医療ケアがわかる。 5. 薬剤投与の医療ケアがわかる。	1. 在宅における医療処置に伴う援助技術 2. 喀痰吸引、気管カニューレ交換、管理 3. 在宅人工呼吸療法・在宅酸素療法 4. 在宅経管栄養法・経腸栄養法 5. 持続皮下注射と服薬管理 6. 在宅中心静脈栄養 7. 膀胱カテーテル、自己導尿 8. ストーマケア	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野

地域・在宅 看護方法論 IV (1単位 15時間)	地域で暮らす人々を支えるためには、要望的な側面からとらえることや生活を支える施策を把握して問題解決思考を用いた看護実践が必要である。	1. 在宅看護における看護過程の展開方法を理解する。 2. 在宅看護における臨床判断を理解する。	1. 在宅看護過程の展開 2. 情報収集と情報整理 3. 全体像 4. 看護計画立案 5. 事例における援助の実際 6. 事例に関連した臨床判断 7. 省察と実践	看護学概論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
成人看護学 概論 (1単位 15時間)	この科目は成人看護学の「導入」「序説」としての位置づけにある。成人期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、成人の成長発達の特徴と健康問題について理解する。健康に関する考え方も多様であるため、「病気でないこと＝健康」ととらわれない多様な健康観を踏まえた看護を考える必要がある。	1. 成人の定義と成人各期の特徴が説明できる 2. 成人保健の動向がわかる。 3. 成人各期の健康問題がわかる。 4. 成人の多様な健康観と保健行動に及ぼす影響がわかる。 5. 成人期にある対象の理解と看護を考える上で有用な「理論」「モデル」がわかる。	1. 成人とは 2. 成人期における特徴 3. 成人保健の動向 4. 成人期に見られる健康問題 5. 成人を「生活者」としてとらえる視点 6. 成人への看護に有用な「理論」「モデル」	看護学概論 家族関係論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
成人看護学 方法論Ⅰ (1単位 30時間)	解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、あるいは障害をもちながら生活を再構築していく過程を支援するために知識と技術を学ぶ。ここでは呼吸器・循環器・運動機能障害のある対象看護について学ぶ。	1. 呼吸器障害のある対象看護を理解する。 2. 循環器障害のある対象看護を理解する。 3. 運動器障害のある対象看護を理解する。	呼吸器 ①呼吸機能障害 ②呼吸困難時の呼吸理学 ③気管支喘息・COPDの看護 ④肺切除を受ける患者の看護 ⑤肺がん患者の看護 循環器 ①循環器障害のある人のアセスメント ②不整脈患者の看護 ③虚血性心疾患の看護 ④手術を受ける患者の看護 ⑤心不全患者の看護 運動器 ①運動器障害のアセスメント ②変形膝関節症の看護 ③関節リウマチ ④脊髄損傷、骨腫瘍患者の看護	フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 微生物学 臨床薬理学 病気を診る看護 専門分野
成人看護学 方法論Ⅱ (1単位 30時間)	解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、あるいは障害をもちながら生活を再構築していく過程を支援するために知識と技術を学ぶ。ここでは消化・吸収障害、代謝・内分泌障害・腎機能障害のある対象看護について学ぶ。	1. 消化・吸収障害のある対象への看護を理解する。 2. 代謝・内分泌障害のある対象への看護を理解する。 3. 腎機能障害がある対象への看護を理解する。	消化器 ①消化・吸収障害のある患者の観察 ②検査・処置を受ける患者の看護 ③④手術を受ける患者の看護 ⑤肝がん、膵臓がんの看護 代謝・内分泌 ①代謝・内分泌障害のある患者の観察 ②糖尿病患者の看護 ③検査処置の看護 ④甲状腺疾患の看護 ⑤高脂血症、高尿酸血症の看護 腎 ①腎機能に障害のある患者の観察 ②腎不全の患者の看護 ③血液透析・腹膜透析の看護 ④腎臓移植を受ける患者の看護	フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 微生物学 臨床薬理学 病気を診る看護 専門分野
成人看護学 方法論Ⅲ (1単位 30時間)	解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、あるいは障害をもちながら生活を再構築していく過程を支援するために知識と技術を学ぶ。ここでは脳・神経機能障害、血液・造血器機能障害・免疫機能障害、咀嚼・嚥下機能障害、皮膚疾患のある対象看護について学ぶ。	1. 脳・神経機能障害のある対象の看護を理解する。 2. 血液・造血器疾患患者の看護を理解する。 3. 免疫機能障害のある患者の看護を理解する。 4. 咀嚼・嚥下障害のある対象の看護を理解する。 5. 皮膚疾患のある対象の看護を理解する。	脳神経 ①脳・神経機能障害がある患者の観察 ②脳腫瘍患者の看護 ③手術を受ける患者の看護 ④若年性認知症患者の看護 摂食・嚥下障害 ①摂食・嚥下機能障害のある患者の観察 ②嚥下訓練 血液・造血器 ①血液・造血器障害の観察 ②白血病患者の看護 ③造血幹細胞移植を受ける患者の看護 感染症・免疫・アレルギー ①アセスメント②自己免疫疾患患者の看護 歯・口腔 皮膚	フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 微生物学 臨床薬理学 病気を診る看護 専門分野
成人看護学 方法論Ⅳ (1単位 30時間)	解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、あるいは障害をもちながら生活を再構築していく過程を支援するために知識と技術を学ぶ。ここでは泌尿器に障害、女性生殖器に障害・免疫機能障害、咀嚼・嚥下機能障害、皮膚疾患のある対象看護について学ぶ。	1. 泌尿器に障害のある対象看護を理解する。 2. 女性生殖器機能障害がある対象看護を理解する。 3. 眼科疾患のある対象看護を理解する。 4. 耳鼻咽喉疾患のある対象看護を理解する。 5. 放射線療法を受ける対象看護を理解する。	泌尿器 ①泌尿器に障害のある患者のアセスメント ②前立腺切除術を受ける患者の看護 ③尿路変更術を受ける患者の看護 女性生殖器 ①生殖・性機能障害のある患者のアセスメント ②子宮・卵巣摘出・乳房摘出を受ける患者の看護 眼 ①検査・処置を受ける患者の看護 ②網膜剥離術、角膜移植を受ける患者の看護 耳鼻咽喉 ①検査・処置を受ける患者の看護 ②副鼻腔炎、中耳炎患者の看護 がん放射線看護 ①放射線治療を受ける患者の看護の実際 ②意思決定の看護	フィジカルアセスメント 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 微生物学 臨床薬理学 病気を診る看護 専門分野

成人看護学

老年看護学	老年看護学概論 (1単位 15時間)	高齢者はどのような人生を歩み、また歩んでいくのだろうか。取り巻く環境の現状や課題は何か。この科目では「対象理解」の基盤と「老年看護の基本的な考え方」を軸に老年期をとらえることがねらいである。	1. 高齢者の発達課題と特徴がわかる 2. 高齢者を取り巻く社会環境がわかる 3. 老年看護の役割と機能がわかる 4. 高齢者と家族との関係について理解し 多角的な視点が持てる 5. 高齢者の尊厳や人権を尊重し、支援する姿勢が持てる	1. 高齢者の理解 2. 高齢者を取り巻く社会 3. 高齢者看護の特性	心理学 家族関係論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野
	老年看護学方法論Ⅰ (1単位 30時間)	老年期の対象は、加齢がもたらす身体的・心理的、社会的変化は対象となる高齢者の人生、暮らしに影響を及ぼす。対象はその変化に適応しながら自立したその人らしい暮らしを送っている。暮らしに影響を及ぼす「加齢」の実態とその影響、その人らしい暮らしを送るために必要な支援の視点を学ぶ。	1. 高齢者の生理的特徴がわかる 2. 高齢者の特徴を踏まえたフィジカルアセスメントがわかる 3. 高齢者の生活機能のアセスメントがわかる 4. 高齢者の健康・自律を支える基本的援助ができる 5. 高齢者の生活の場である各施設の機能・役割と看護の特徴がわかる	1. 高齢者看護の基本 2. 生活を支える看護 3. 高齢者に特有な症候・障害と看護(加齢による病態と要因を中心に) 4. 高齢者の多様な生活の場	心理学 家族関係論 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野
	老年看護学方法論Ⅱ (1単位 30時間)	老年期に代表的な疾患を取り上げ、病態の理解と加齢による変化を踏まえた健康問題を知る。健康問題が暮らしに及ぼす影響や対象にとってのQOL等、老年看護の基本的な視点を学ぶ。	1. 老年期に特有の疾患と病態生理を理解し、健康問題に対する看護がわかる 2. 治療を受ける高齢者の看護がわかる	1. 高齢者に特有の疾患 ①認知症 ②せん妄 ③うつ病 ④パーキンソン病 ⑤骨粗鬆症 ⑥骨折 ⑦肺炎 ⑧COPD ⑨心不全	病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 専門分野
小児看護学	子ども看護学概論 (1単位 15時間)	子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療の現状と課題、子どもの法律や施策、小児看護で用いられる理論について学ぶ。子どもとその家族の理解より、子どもの成長・発達を支援する看護実践に活用することがねらいである。	○小児看護の理念、家族とともに子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を理解する。 ○子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療を理解し、小児看護の課題を説明する。 ○小児看護の理論を基に、子供の成長発達を支援する看護について理解する。	1. 小児看護学で用いられる概念と理論① 2. 小児看護学で用いられる概念と理論② 3. 子どもの成長・発達と看護(乳児期) 4. 子どもの成長・発達と看護(幼児期) 5. 子どもの成長・発達と看護(学童期) 6. 子どもの成長・発達と看護(思春期) 7. 子どもを取り巻く環境	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 社会福祉 専門分野
	小児看護学対象論：疾患 (1単位 15時間)	小児を看る看護師には、症状が急激に変化しやすい小児の身体的特徴を理解し疾患に応じた症状をとらえてアセスメントする能力が必要となる。小児がり患しやすい疾患の病態、診断や治療について学ぶ。	1. 小児の疾患の病因、病態、検査、治療を理解する。 2. 小児の自覚症状や身体所見と関連した病態生理を理解する。	1. 新生児疾患 2. 代謝・内分泌疾患 3. 感染症 4. 呼吸器・循環器疾患 5. 腎・泌尿器・消化器疾患 6. 血液・腫瘍・神経・筋・精神疾患 7. 外科疾患 8. 眼科疾患	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 社会福祉 専門分野
	小児看護学対象論：看護 (1単位 15時間)	小児と家族は相互関係を展開しており、家族の影響は大きい。そのため小児が健康な成長発達をするためには、その家族自体が安定していることが必要となる。疾患により様々な状況におかれた子どもと家族の看護を学ぶ。	1. 健康を害することが子どもと家族にとってどのような影響を及ぼすのか理解する。 2. 様々な状況下におかれた子どもと家族の状況をとらえた看護について理解する。 3. 健康レベルに応じた子どもとその家族の看護を理解する。	1. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響と看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 3. 慢性期にある子どもと家族の看護 4. 新生児と家族の看護 5. 検査や処置を受ける子どもの看護 6. 被災した子どもの看護・被虐待児と家族の看護 7. 在宅における子どもと家族の看護	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 社会福祉 専門分野
	小児看護と看護技術Ⅰ (1単位 15時間)	小児の発達と看護の知識を踏まえ、小児がり患しやすい疾患と症状を知り、対応できるよう学ぶ。	1. 小児がり患しやすい疾患・症状とその看護について理解する。 2. 子どもの成長・発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。	1. 急性期にある子どもと家族の看護 2. 慢性期にある子どもと家族の看護 3. 終末期にある子どもと家族の看護 4. ハイリスク新生児と家族の看護 5. 先天的な健康問題をもつ子どもと家族の看護 6. 心身障害のある子どもと家族の看護	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 専門分野
	小児看護と看護技術Ⅱ (1単位 15時間)	小児のフィジカルアセスメント、発達段階に応じた看護技術を習得する。	1. 子どもの身体の特徴を踏まえた観察方法がわかる。 2. 発達段階に応じた遊びや学習支援の必要性がわかる。 3. 小児に必要な看護技術を習得する。	1. フィジカルアセスメント演習 2. 安心・安全な環境調整技術 3. 救急処置が必要な子どもと家族の看護 4. 小児看護技術演習	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 病態治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 病気を診る看護 専門分野
	母性看護学概論 (1単位 15時間)	母性看護は女性の性と生殖を支え、次世代の健全な育成に関与する看護学である。母性看護学の基本となるリプロダクトヘルス・ライツの考えを理解し、母性看護学に関わる生命倫理や、性とはなにか、子が健全な成長発達の遂げるためにはなにかが重要かを考える。	1. 母性保健の動向と母性看護の意義を理解する。 2. 母性看護の対象と、取り巻く環境について理解する。 3. 多様な性について考える。 4. 子の健全な成長発達のために何が重要かを考える。	1. 母性看護学とは 2. 性と生殖 3. 子の健全な成長発達のためにはなにかが重要か	生物学 哲学 社会学 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 家族関係論 専門分野
母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ (1単位 30時間)	この科目では妊娠・分娩・産褥の一連の経過と新生児の生理について正常な経過を学習し、対象理解と看護を展開するための基礎的知識を学ぶ。	1. 妊娠の成立と正常な妊娠経過とその看護の理解 2. 分娩の正常な経過とその看護の理解 3. 産褥の正常な経過とその看護の理解 4. 新生児の生理とその看護の理解 5. 新生児の看護に必要な技術を実施する	1. 正常な妊娠経過と看護 2. 正常な分娩経過と看護 3. 正常な産褥経過と看護 4. 新生児の生理と看護 5. 新生児のケア	生物学 解剖生理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 看護倫理 専門分野
	母性看護学方法論Ⅱ (1単位 30時間)	この科目では月経異常と不妊症、妊産褥婦の異常について学習した上でどのような看護が必要かを学習する。また、学習した知識を基に褥婦と新生児の看護過程をウェルネス看護の視点で展開し、母性看護における思考のプロセスを学ぶ。	1. 月経異常と不妊症について理解する 2. お後をめぐる倫理について考える 3. 周産期におけるハイリスクの看護を理解する 4. 褥婦と新生児の看護過程展開に必要な知識と方法を理解する	1. 月経異常と不妊症 2. 命をめぐる倫理 3. 周産期におけるハイリスクへの看護 4. ウェルネス看護診断に基づく看護過程	生物学 解剖生理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 看護倫理 専門分野

精神看護学	精神看護学 概論 (1単位 15時間)	精神領域においては障害との付き合い方だけでなく、生涯、社会生活の中での生きづらさや不自由さを抱えて生きるという健康観を考える重要な機会となる。心の機能と構造、健康レベルを理解し、心の健康の回復・保持・増進に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。さらに精神の健康を支える精神保健と精神障害者の生活を支える精神障害者福祉を統合した精神保健福祉活動の概観を学ぶ。	1. 精神看護の対象を理解する 2. 精神の構造と機能を理解する 3. こころの発達と健康を理解する 4. 精神看護の基盤となる理論を理解する 5. 発達段階や生活の場における機器について理解する 6. 精神保健福祉の歴史を理解する 7. 地域保健活動について理解する	1. 精神看護の基本理念 2. 人間のこころと行動 3. 人格の発達理論と情緒体験 4. 人生各期の発達課題 5. 現代社会とこころ 6. 家族とその支援 7. 嗜癖と依存 8. 精神保健福祉と看護の歴史変遷 9. 精神保健福祉をめぐる法律 10. 成年後見制度	心理学 哲学 社会学 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学
	精神看護学 対象論 (1単位 30時間)	心の健康問題をもつ対象の精神状態を知り、精神障害の特徴と各種検査・診断・治療について学ぶ。	1. 精神障害の主な症状を理解する 2. 精神障害の主な診断と検査を理解する 3. 精神障害の主な疾患を理解する 4. 各種治療法を理解する	1. 精神症状と精神疾患 ①精神疾患概論 ②精神発達症 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害 ⑥強迫性障害 ⑦ストレス関連生涯 ⑧解離性障害 ⑨摂食障害 ⑩物質関連障害 ⑪神経認知障害 2. 医学的検査と心理検査 3. 精神科での治療リハビリテーション	心理学 哲学 保健医療論 精神看護学概論 家族関係論 臨床心理学
	精神看護学 方法論 (1単位 30時間)	入院か地域療養かに関わらず、精神障害を抱える人々の回復を援助の中心に据え病理的問題に限らず当事者の持つ力あるいはレジリエンス等ポジティブな可能性に着目して看護を学ぶ。こころを病んだ人を前にその人を理解する過程そのものが看護であることや関係性が治療と深く関係することを学ぶ。	1. 精神科での援助におけるアセスメントの視点がわかる 2. 精神科看護における援助の特徴と方法がわかる 3. 精神科病棟の特徴と治療的環境の理解 4. 精神科リハビリテーションの意味とサポートシステムがわかる 5. 救急医療現場における精神科対応と看護がわかる 6. 疾患に伴う症状と看護を理解する 7. 心に障害を持つ対象と自己理解	1. 精神看護における対象の理解 2. 精神看護におけるケアの方法 3. 入院環境と治療的アプローチ 4. 精神保険活動とリハビリテーション 5. 救急医療現場における患者支援と精神的関わり 6. 事例に学ぶ実際 7. 看護の倫理と人権擁護 8. 看護理論 9. 関係成立のための援助技術 10. 成年後見制度	心理学 哲学 保健医療論 精神看護学概論 家族関係論 臨床心理学
看護の統合と実践	国際看護と 災害看護 一国際看護 (1単位 15時間)	国際看護活動における対象把握の要因と国際的な健康問題を認識した上で解決にむけて、対象の尊厳を守りつつ提供する看護活動を学ぶ。	1. 国際社会における保健医療福祉の動向を知る 2. 国際的な健康問題と目標を理解する 3. 看護の国際協力の意義について理解する 4. 国際協力における看護師の基本的責務を理解する	1. 国際社会の保健医療福祉の動向 2. 国際社会における健康問題と課題 3. 異文化における健康観と保健行動 4. 看護の国際協力の組織・しくみ	社会学 文化人類学 生活科学 専門分野
	国際看護と 災害看護 一災害看護 (1単位 15時間)	災害の特徴やサイクルの特徴に沿って、看護の知識や技術を適切かつ柔軟に用い他分野と協働して災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力するなくするための看護活動を理解する。トリアージや傷病者救護などの実践のシミュレーション学習を通して災害看護実践を学ぶ。	1. 災害の種類・特徴・災害に関する法律を理解する。 2. 災害サイクルの特徴にあわせた看護を理解する。 3. 災害看護実践を体験する。	1. 災害の種類・特徴 2. 災害に関する法律 3. 災害サイクルと看護活動 4. 被災者と心理の特徴、援助 5. 災害時に必要な医療・技術 トリアージ・BLS演習	社会学 治療総論Ⅰ・Ⅱ 専門分野
	看護管理と 医療安全 一看護管理 (1単位 15時間)	医療福祉の現場で活躍する看護師はチームの一員としてマネジメント能力や看護の質を科学的に評価維持するためのリーダーシップを求められる。看護管理の基礎的知識を基に看護活動の場で看護の質向上のあり方を発展的に追及する姿勢を学ぶ。	1. 看護マネジメントの概念及び目的・必要性とプロセスの構成・サイクルについて説明する 2. 看護マネジメントが行われる組織について理解し役割機能を説明する 3. 組織を調整するためのツールを理解し一人ひとりの看護師のために何が必要か説明する 4. 看護ケア提供システムを説明する 5. 看護を取りまく制度を説明する 6. 看護サービスのマネジメントの特徴を説明する	1. サービスとしての看護 2. 看護サービスの提供の場 3. 看護をめぐる制度と政策 4. 看護サービス管理 5. 医療安全と医療の質保証 6. 看護職者の就業状況と継続教育	論理的思考 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 関係法規 看護学概論 看護倫理 専門分野
	看護管理と 医療安全 一医療安全 (1単位 15時間)	ヒューマンエラーと看護における危険因子を理解した上で、危険を感知する能力を高め、どのような行動が必要か考え行動づる力を身につける。専門職業人としての人間性や倫理観、自己の行動を考察し自己の課題を明確にする。	1. 医療における安全管理の基本と重要性及び患者を取り巻く環境の危険因子を理解する。 2. 看護業務や看護技術にかかる危険因子を認識でき適切に対処する力を身につける。	1. ヒューマンエラーと医療事故 2. 看護事故の構造と防止の考え方 3. 看護業務の危険因子と事故防止対策 4. 危険度の高い薬剤の取り扱い 5. 様々なシーンにおけるリスク管理	論理的思考 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 関係法規 専門分野
	専門職連携 演習 (2単位 30時間)	他の専門職種過程を学ぶ学生達と協同学習を通して、対象の健康や生活を守る保健医療福祉サービスの提供に向けて、お互いの職種の特性や専門性を活かしながら、対象の課題解決のためにより良い方法を模索し実現を目指す協働の学ぶ。	1. 各専門職の役割と責務について共有する。 2. 専門職業間でのコミュニケーションを身につける。 3. 対象者志向の倫理観を持つ。 4. 専門職種間で対象の目標を共有する。 5. 対象者の目標達成・ケアの質向上を考える。 6. 多職種協働に向けての展望を語り合う。	1. 演習のねらいと目的 2. 看護師の職制と業務 3. 社会福祉士の職制と業務 4. 事例のグループワーク 5. 支援計画のプレゼンテーション1 6. 評価・修正 7. 事例のグループワーク 8. 支援計画のプレゼンテーション2 9. 全体講評 10. リフレクション	論理的思考 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 関係法規 専門分野
	看護の統合 と実践方法 (2単位 30時間)	組織における看護師の役割を理解すること、チーム医療の中で他職種と協働し看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解し看護がマネジメントできること。既習の知識、技術の統合を図るとともに、看護の専門性、ケアの質向上を追及する姿勢を身につけ、科学的根拠に基づいた看護の実践習得が目的である。	1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養い、看護業務を行う一員としての役割と責任を理解する。 2. チーム医療及び多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。 3. 既習の知識・技術を統合し臨床現場で看護実践できる基礎的能力を身につける。 4. 看護実践における組織の実際や方法について学び、看護師としての責任と自覚を持つ。	1. 医療チームの中での看護師の役割 ①看護部の組織としての特徴と活動内容 ②病院組織で看護部門に期待されている役割 ③看護管理における報告の必要性和内容 ④看護体制の種類と方法 ⑤医療者としてのマナー ⑥看護チームのコミュニケーションの意義 ⑦患者の基礎データ把握の目的と意味 ⑧診療記録・看護記録等の意味 ⑨日案のスケジュール立案方法 ⑩業務時間の管理の目的と方法 ⑪多重課題の意味と危険性 ⑫看護現場における多重課題と優先順位	論理的思考 社会福祉 保健医療論Ⅰ・Ⅱ 関係法規 専門分野